

学 生 懸 賞 論 文 執 筆 要 領：様式編（参考資料）

0. 応募論文について

応募に際して、指導教授に指導を受けること。また、この様式に従って執筆すること。ただし、応募論文について、学内ゼミナール大会等で発表したもの（報告書）を指導教授の指導を受けて今回の応募論文用として改訂したものは、未発表のものと見なす。なお、応募論文が扱う専門領域においてこの執筆要領とは異なる出典の引用方法及び参考文献の記載方法等があるときは、指導教授の指導に従い、その専門領域の方法を採用することができる。

1. 全体の形式

- ①（フォント）本文の文字サイズは11ptとする。日本語の書式は「MS 明朝」、英数字の書式は「Times New Roman」とする。
- ②（表紙）表紙には、主題（タイトル）及び副題（サブタイトル）、執筆者名を記入すること。必要であれば謝辞も表紙内に記入すること。
- ③（節立て）本文は、「1. はじめに」、「2. ……（本論）」、「5. まとめ」のように適切に節立てをすること。節のタイトルはその節の内容がわかるようなものにすること。節番号には連続した番号を振ること。また、必要に応じて、「1. 1. ……」のように、サブセクションを作成しても構わない。
- ④（図表）図と表それぞれに通し番号を付け、タイトルをつけること。例、「表1. ……」、「表2. ……」、「図1. ……」、「図2. ……」。
- ⑤（図表）作成元になった資料、データなどがあれば、脚注を用いて出典を明記すること。出典の文中での引用方法及び参考文献の記載方法は第3項と第4項を参照すること。
- ⑥（参考文献）本文の末尾、「まとめ」の後に、「参考文献」という節を作成すること。
- ⑦（脚注）脚注を作成する場合は、文末脚注ではなく、該当するページに適宜作成すること。脚注も連続した番号を振ること。
- ⑧（補論）補論は「参考文献」の節の後に独立して作成すること。また、必要に応じて「補論1. ……」、「補論2. ……」のように節立て、節のタイトル作成を行うこと。

2. 表記ゆれ

- ①数字は半角のアラビア数字（1, 2, 3……）を使うこと。ただし、熟語や固有名詞はそのままの漢字を使うこと。例. 十人十色、四日市市など。
- ②和暦と西暦はいずれか一方に統一し、混在させないこと。ただし、西暦で統一したとしても、『令和3年度学校基本調査』のような文献のタイトルに和暦が含まれる場合は、混在しても構わない。

3. 文中での引用の仕方

- ①本文、補論または脚注内で文献・情報を引用する場所は、次のいずれかの方法とする。
 1. 文中で主語として使う場合（カッコの中は文献・情報の発行年）
例. ……である。田中（2021）は……であることを明らかにしている。
 2. 文章の論拠・引用元として使う場合（カンマの後は文献・情報の発行年）
例. ……であると言われている（田中, 2021）。……
- ②本文内での文献・情報は、言語と執筆者数に応じて、以下のような書き方とする。
 1. 日本語文献・情報（執筆者が2名以下）の場合、全ての著者の名字を記載する。
例. 田中（2021）；田中・鈴木（2021）；（田中, 2021）；（田中・鈴木, 2021）
 2. 日本語文献・情報（執筆者が3名以上）の場合、第1著者の名字に「ら」を加える。
例. 田中ら（2021）；（田中ら, 2021）
 3. 英語文献・情報（執筆者が2名以下）の場合、全ての著者の名字を記載する。
例. Tanaka（2021）；Tanaka and Suzuki（2021）；（Tanaka, 2021）；（Tanaka and Suzuki, 2021）
 4. 英語文献・情報（執筆者が3名以上）の場合、第1著者の名字に「et al.」を加える。
例. Tanaka et al.（2021）；（Tanaka et al., 2021）
- ③同一人物の同一年発行の異なる文献を複数引用する場合、発行年次の後にa、b、c…を追加し、区別すること。例. 田中（2021a）、田中（2021b）、田中（2021c）
- ④参考文献に載せるウェブ情報は①～③と同じ方法を用いて本文内で引用すること。一方、参考文献に載せないウェブ情報については、脚注を使ってURLと最終アクセス日を載せること。
例. ……であると言われている¹⁰。
（ページ最下部の脚注部分）¹⁰ URL：https://www.matsuyama-u.ac.jp/（最終アクセス日2022年2月28日）
- ⑤参考文献の参照ページを記載してもよい。
例. ……である。田中（2021, 10ページ）は……であることを明らかにしている。

4. 文末の参考文献の書き方

- ①文献・情報は分類に応じて以下の順で記載すること。
 - 論文：著者名、発行年次、論文のタイトル、雑誌名、巻数、号数、掲載ページ。
 - 著書：著者名、発行年次、書籍名、出版社名。
 - 書籍内の章：章の著者名、発行年次、章のタイトル、書籍の著者名、書籍名、掲載の章番号、掲載ページ、出版社。
 - ウェブ情報：著者名、発行年次、情報のタイトル、URL、アクセス年月日。
- ②全ての著者を記載すること。日本語文献の場合は、論文・情報タイトルを「」で、雑誌・書籍名を『』で囲むこと。英語文献の場合は、論文・情報タイトルを“”で囲み、雑誌・書籍名はイタリック体で記載すること。
- ③参考文献は、日本語文献を筆頭著者名（姓）の五十音順で記載し、その後英語論文を筆頭著者名（姓）のアルファベット順で記載すること。

- ④文末の「参考文献」節では、本文内で引用された文献・情報を全て記載すること。それと同時に、「参考文献」節に載せられた文献・情報は本文及び脚注内で全て引用していること。
- ⑤参考文献の書き方の例は以下になる。あればDOIも記載すること。

●論文

松山A郎・松山B郎（2021）「学生懸賞論文について」『松大論集』第1巻、第2号、pp. 100–120.

Matsuyama, A. and Matsuyama, B. (2021) “Student Thesis Award”, *Matsuyama University Review*, Vol. 1, Issue 2, pp. 100–120.

●著書

松山A郎・松山B郎（2021）『学生懸賞論文の実態』松山大学出版.

Matsuyama, A. and Matsuyama, B. (2021) *Reality of Student Thesis Award*, Matsuyama University Press.

●書籍内の章

松山C郎（2021）「学生懸賞論文について」松山A郎・松山B郎編『学生懸賞論文の実態』2章、pp. 100–120、松山大学出版.

Matsuyama, C. (2021) “Student Thesis Award”, Matsuyama, A. and Matsuyama, B. Eds., *Reality of Student Thesis Award*, Chapter 2, pp. 100–120, Matsuyama University Press.

●ウェブ情報

松山大学（2021）「2021年度学生懸賞論文応募要項」

<https://www.matsuyama-u.ac.jp/research/sweepstakes/sweepstakes-app/>（最終アクセス日2022年2月28日）